

令和4年度 第1回うつのみや産業振興協議会

日 時：令和4年7月22日（金）
午前10時30分から正午まで
会 場：宇都宮市役所14階 14A会議室

会 議 次 第

1 開 会

2 議 事

「うつのみや産業振興ビジョン」の中間見直しについて

- ・ うつのみや産業振興ビジョンの取組評価及び中間見直しに伴う本市社会・経済の課題等について

資 料 うつのみや産業振興ビジョンの取組評価及び中間見直しに伴う本市社会・経済の課題等について

別紙1 中間見直し後のビジョンの構成及び主な内容（案）

別紙2 本市産業を取り巻く環境の変化等について

別紙3 本市産業の振興上の課題について

3 その他

4 閉 会

うつのみや産業振興協議会 委員名簿

(令和4年度)

No.	分野	組織名	役職	氏名	備考
1	産業界	農業	宇都宮農業協同組合	代表理事常務	見形 繁
2		株式会社 ファーマーズ・フォレスト	代表取締役	松本 謙	
3		工業	株式会社 ジェイテクトファインテック	専務取締役	印南 達也
4			株式会社 オニックスジャパン	代表取締役	大西 盛明
5			キャノン 株式会社 宇都宮阿見人事部	部長	石川 和良
6			株式会社 SUBARU 航空宇宙カンパニー 総務部	部長	羽野 将史
7		商業・情報	株式会社 TKC	相談役	角 一幸
8			株式会社 東武宇都宮百貨店	取締役社長	守 徹
9			東日本電信電話 株式会社 栃木支店	理事 栃木支店長	小林 博文
10		観光	株式会社 JTB 宇都宮支店	支店長	北上 和博
11			スポーツ	サイクルスポーツマネージメント 株式会社	代表取締役社長
12		株式会社 栃木サッカークラブ		代表取締役社長	橋本 大輔
13	支援機関	宇都宮商工会議所	常務理事	小関 裕之	副会長
14		宇都宮まちづくり推進機構	理事長	須賀 英之	会長
15		公益財団法人 栃木県産業振興センター	専務理事	坂入 武司	
16	経験者 学識	株式会社 あしぎん総合研究所	チーフエコノミスト	豊田 晃	
17		国立大学法人 宇都宮大学 イノベーション支援センター	センター長	高山 善匡	
18	行政	栃木労働局	職業安定部長	左藤 倫子	
19		宇都宮市	経済部長	笹野 賢治	

(敬称略・分野ごと組織名五十音順)

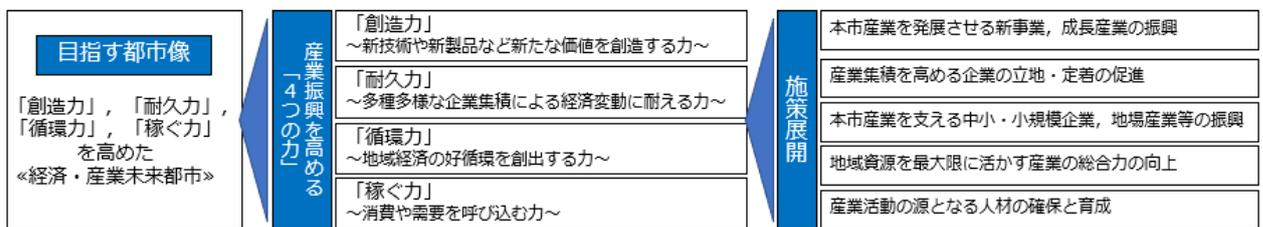
うつのみや産業振興ビジョンの取組評価及び 中間見直しに伴う本市社会・経済の課題等について

1 うつのみや産業振興ビジョン（以下、「ビジョン」という。）の概要

(1) 目的

本市が持つ資源や強み、ポテンシャルを活かすことで、第一次産業から第三次産業までの「創造力」、「耐久力」、「循環力」、「稼ぐ力」を高め、人や企業から選ばれ将来にわたって持続的に発展する「経済・産業未来都市」の実現を図るもの

(2) ビジョンの体系



(3) 計画期間

- ・ 計画期間は平成30年度から令和9年度までの10年間（5年ごとに見直し）
- ・ 令和4年度で改定から5年目を迎えるため、中間見直しを実施

2 ビジョンの中間見直しについて

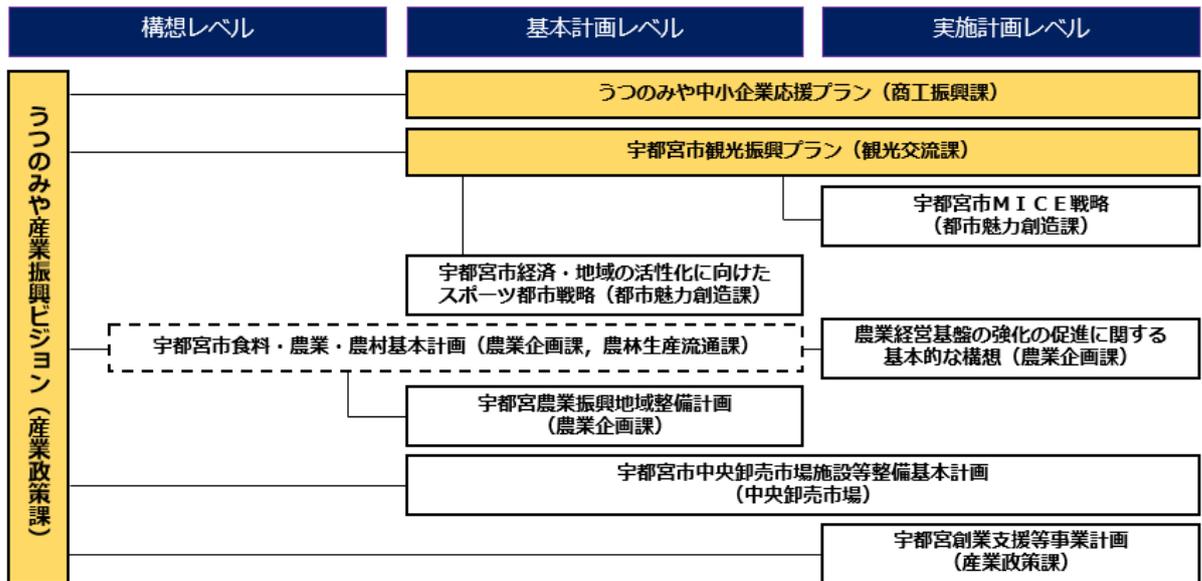
(1) ビジョン見直しの目的

今年度が中間年（5年目）に当たることから、現行ビジョン策定後に顕出・顕在化した社会経済環境の変化などを踏まえた上で、「第6次宇都宮市総合計画後期基本計画策定方針」に掲げる、スーパースマートシティを構成する社会の一つである、「地域経済循環社会」の実現に向け、見直しを図る。

(2) ビジョンの位置づけと役割

- ・ 「第6次宇都宮市総合計画」における経済・産業分野に掲げる政策を実現するため、経済分野全体を所掌する構想レベルの計画
- ・ 経済分野全体を所掌するビジョンとして、施策の方向性を定める役割を担い、具体的な施策や事業については、他の行政計画である基本計画や実行計画にゆだねる。
- ・ ただし、現行の各種計画等の体系において不足、若しくは計画間の橋渡しが必要な内容についてはビジョンにおいて整理する。

【各種施策体系の体系図】



※ 網掛けは今年度策定予定、破線は来年度策定予定

(3) 見直しに当たってのポイント

- ・ 現行の「施策の柱」を基本としつつ、現行ビジョン策定後に顕出・顕在化した社会経済環境の変化などの新たな要素を盛り込む。
- ・ 脱炭素化に向けた動きなどについては、「宇都宮市カーボンニュートラルロードマップ」で整理される方向性や施策を基本としつつ、特に産業分野において求められる「施策」をビジョンと併せて導出・方向付けを図る。
- ・ 産業用地の確保に係る考え方については、これまでの個別の政策決定を踏まえ、ビジョンにおいて改めて一連の方針として明文化する。

3 改定後のビジョンの構成及び主な内容（案）について

- ・ 今回は中間見直しであり、改正後のビジョンの構成については現行ビジョンの構成を基本とする。
- ・ 改定後のビジョンの項目及び主な内容（案）については別紙1のとおり

4 現行ビジョンの取組評価及び本市の産業を取り巻く環境の変化等について

現行ビジョンの取組状況の評価及び、本市を取り巻く社会経済環境の変化や社会・経済の現状・課題を踏まえた、本市の「強み・弱み」については、別紙2のとおり

5 本市産業の振興上の課題について

本市の社会経済環境の現状や特徴・特性などを踏まえた、本市産業の振興上の課題等については、別紙3のとおり

6 今後のスケジュール

令和4年	9月下旬	第2回産業振興協議会（骨子（構成と主な内容））
	11月中旬	第3回産業振興協議会（素案）
	12月	パブリックコメント
令和5年	2月上旬	第4回産業振興協議会（最終案）
	2月中旬	庁議 ⇒ 公表

改定後のビジョンの構成及び主な内容（案）

現行ビジョン		改定後ビジョン（案）	
<p>【第1章】 うつのみや産業振興ビジョンの改定に当たって</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 改定の背景 2 位置づけ 3 計画期間 		<p>【第1章】 うつのみや産業振興ビジョンの<u>中間見直し</u>に当たって</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 <u>中間見直し</u>の背景 2 位置づけ 3 計画期間 	
<p>【第2章】 これまでの取組評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前期5年間（平成24年度～平成28年度）の取組評価 		<p>【第2章】 これまでの取組評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前期5年間（平成29年度～令和3年度）の取組評価 	
<p>【第3章】 本市の産業を取り巻く環境の変化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会経済環境の変化 2 国・県の産業施策等 3 本市の社会経済環境 4 本市の特徴・特性（強み・弱み） 	<p>策定後に顕出・顕在化した社会経済環境の変化や最新の社会経済環境を分析した上で、本市の特徴、特性を改めて導出・整理</p>	<p>【第3章】 本市の産業を取り巻く環境の変化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会経済環境の変化 2 国・県の産業施策等 3 本市の社会経済環境 4 本市の特徴・特性（強み・弱み） 	<p>今回ご協議 いただく個所</p>
<p>【第4章】 本市産業の振興上の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会経済動向の変化への対応 2 本市産業の特徴や特性とこれまでの取組評価から見えた課題 	<p>第3章にて整理した内容を踏まえ、社会経済動向の変化への対応や本市産業の特徴や特性、取組評価等から課題を導出・整理</p>	<p>【第4章】 本市産業の振興上の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会経済動向の変化への対応 2 本市産業の特徴や特性とこれまでの取組評価から見えた課題 	
<p>【第5章】 本市が目指す産業発展の姿</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目指す都市像 2 産業振興を高める「4つの力」 3 それぞれの産業振興の方向性 4 ビジョンの新たな指標 	<p>現行ビジョンを基本としながら、産業振興の方向性等を第3章、第4章にて整理した内容を踏まえ改定</p>	<p>【第5章】 本市が目指す産業発展の姿</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目指す都市像 2 産業振興を高める「4つの力」 3 それぞれの産業振興の方向性 4 ビジョンの新たな指標 	
<p>【第6章】 施策展開と重点取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 5つの施策 	<p>現行ビジョンを基本としながら、産業振興の方向性等を第3章、第4章にて整理した内容を踏まえ改定</p>	<p>【第6章】 施策展開と重点取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 5つの施策 	
<p>【第7章】 推進体制</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 推進と評価 2 ビジョンの見直し 		<p>【第7章】 推進体制</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 推進と評価 2 ビジョンの見直し 	<p>次回ご協議を 予定する個所</p>

1 ビジョンの取組状況の評価【第2章】

【全体指標】

- 新型コロナウイルス感染症（以下、「感染症」という。）の影響もあり、策定時より減少している指標もあるが、おおむね順調に推移

指標	策定時	最新値	増減
市内総生産	2,719,616百万円 (平成26年度)	3,017,891百万円 (平成30年度)	↑
製造品出荷額等	1,981,060百万円 (平成26年度)	2,188,265百万円 (令和2年度)	↑
小売業年間販売額 /市民1人	1.16百万円 (平成26年度)	1.35百万円 (平成28年度)	↑
農業産出額	20,380百万円 (平成27年)	19,500百万円 (令和2年)	↓
観光入込客数	14,380千人 (令和28年)	8,945千人 (令和3年)	↓
就業者数 (15歳以上)	242千人 (平成27年)	227千人 (令和2年)	↓

- 【施策の柱別（○：評価、⇒：課題）】
- 本市産業を発展させる新事業、成長産業の振興**
 - 都内に設置した「宇都宮サテライトオフィス」の活用や産学官連携の促進により、東京圏企業や異業種間でのビジネスマッチングが進んだ。
 - 地域一体での支援体制を構築し、成長意欲の高いベンチャー企業の事業加速を支援した。
 - ⇒ 社会経済環境の変化等も踏まえ、改めて本市の成長産業や中核産業を見極め、振興を図る必要がある。
 - 産業集積を高める企業の立地・定着の促進**
 - 本市への企業の投資需要は高く、産業の集積が順調に進んだ。
 - 「宇都宮サテライトオフィス」の活用により、東京圏企業等のオフィスや本社機能の誘致に取り組んだ。
 - ⇒ 市内には分譲可能な産業用地が存在せず、民間活力の活用も含め、新たな用地の確保が求められている。
 - 本市産業を支える中小・小規模企業、地場産業等の振興**
 - 中小・小規模事業者や農業者を中心に、事業承継や生産性向上に向けたICT導入等の支援に取り組んだ。
 - 農業分野の生産性を向上するため、営農組織化や農地の集約化を進めた。
 - ⇒ 小規模を中心に事業者、農業者は減少傾向にあり、事業・技術承継や生産性や付加価値を向上させるためのICTの更なる利活用を促進する必要がある。
 - 地域資源を最大限に活かす産業の総合力の向上**
 - 「大谷石」や「国際的スポーツイベント」など地域資源の磨き上げによる高付加価値化を図った。
 - 農工商の産業間の連携を進め、6次化などの新事業・新商品の創出に取り組んだ。
 - ⇒ 感染症の状況を見極め、観光業などの振興に取り組むとともに、生産性や付加価値の向上のため、更なる産業間の連携を図る必要がある。
 - 産業活動の源となる人材の確保と育成**
 - 地元就職やU・Jターン就職に向けた意識醸成を図り、若者を中心とする産業人材の確保に取り組んだ。
 - 地域産業をけん引する人材を確保・育成するため、アントレプレナーシップ醸成などに取り組んだ。
 - ⇒ 本市産業構造を維持するため、女性や高齢者等の活躍など就業機会確保に取り組むとともに、働き方の変容や高度人材の需要高騰への対応が必要である。

2 本市を取り巻く社会経済環境の変化【第3章 1～2】

- 本市のまちづくりの進展**
 - LRTやライトキューブ宇都宮、大谷観光周遊施設といったまちづくりの整備
 - 宇都宮サテライトオフィスを活用した魅力発信、MICE等の誘致による賑わい創出
 - 市内産業用地が完売、分譲可能な要素が不足
 - ⇒ 産業用地の早期開発による不足の解消
- 新型コロナウイルス感染症に係る社会経済環境の変化**
 - 企業活動の停滞や雇用悪化等の経済への影響
 - 働き方の変容や業態転換などの急激な変化
 - ⇒ 変異株の出現などによる影響の長期化
- 経済の更なるグローバル化に伴う変化**
 - 感染症の拡大などを契機としたサプライチェーンの見直し、国内・地方回帰
 - T P P、R C E P等の協定発効
 - ⇒ 経済安全保障の問題などを受けた物流の停滞、エネルギー価格等の高騰
- SDGsや脱炭素に向けた動きなどの加速化**
 - 企業経営において環境配慮への重要度が向上
 - 国が2050年までのカーボンニュートラルを宣言、「グリーン成長戦略」や「みどりの食料システム戦略」を策定
 - ⇒ 企業経営における環境配慮が、ESG投資の呼び込みや企業間取引など企業の競争力に影響
- デジタル化の更なる進展や先端技術、成長産業の変化**
 - 半導体産業やICT関連産業が成長産業として台頭
 - 地方創生の柱として、国は「デジタル田園都市国家構想」を推進
 - 農業分野の持続的生産体系への転換に向け、先端技術の利活用による変革の促進
 - ⇒ ITリテラシーや整備環境による成長格差が懸念
- 社会経済環境の変化に伴う雇用環境への影響**
 - 感染症の拡大を契機とした柔軟な働き方やジョブ型雇用の拡大
 - デジタル、グローバル人材などの高度人材の需要高騰
 - ⇒ 安定雇用への不確実性増大、雇用環境の変化の加速

3 本市社会・経済の現状及び課題【第3章 3】

- 人口の動向**
 - ビジョン策定時と同様、自然減・社会増の現状であるが、人口減少が続いている。
- 経済情勢の動向**
 - 感染症の影響を注視する必要があるが、ビジョン策定時と同様、市内総生産は増加傾向にあるものの、事業所・従業者数は減少傾向。
 - 域際収支を見ると、「飲食料・たばこ」（製造業）が突出しており、移輸出超過である。
 - ⇒ 市内総生産を維持・拡大するため、市内産業の生産性向上を更に強化する必要がある。
 - ⇒ 域外から多くの資金を稼ぐ産業に偏りがみられるため、多様化を更に推し進める必要がある。
- 雇用・創業の動向**
 - ビジョン策定時と同様、就業者数は減少傾向にあり、特に平成27年から令和2年にかけて、感染症の影響等もあり約1.5万人と大きく減少している。
 - 開業率・廃業率は全国・栃木県と比較していずれも高い。
 - ⇒ 働くことを希望する女性や高齢者等が更に活躍できる環境の整備が必要である。
 - ⇒ 産業の多様性や新事業創出に向け、更なる創業環境の整備や起業家への経営支援の強化が必要である。
- 製造業の動向**
 - ビジョン策定時から製造品出荷額等は増加しており、内訳を見ると、「飲料・たばこ・飼料製造業」が最も多く、「化学工業」、「輸送用機械器具製造業」と続く。
 - 工業団地立地企業が事業所数の3割、従業者数の6割、製造品出荷額等の約8割を占める。
 - ⇒ 工業団地以外の地場企業の事業所・従業者の減少が顕著であり、事業承継や生産性向上等に引き続き取り組む必要がある。
- 立地の動向**
 - 本市への企業の投資需要は旺盛であり、感染症の影響下においても堅調に推移。
 - 市内の産業団地は整備から期間が経過し、立地企業の設備等の老朽化が進んでいる。
 - ⇒ 市内産業用地は完売状態であり、民間主体による開発も含め、旺盛な企業による投資需要の受け皿となる新たな産業用地の確保が必要である。
- 商業・サービス業の動向**
 - 本市卸売業の年間販売額は県内の約6割を占め、物流ネットワークのハブ機能を担っている。
 - 商業・サービス業は市内事業所・従業者数の約8割を占めるが、第2次産業（製造業等）と比較して、従業者1人当たりの付加価値額が低い傾向にある。
 - ⇒ 雇用吸収力の高い商業・サービス業の生産性向上等に更に取り組む必要がある。
- 観光の動向**
 - 観光入込客数は感染症の影響もあり令和2年度以降大きく減少したものの、各種施策を展開することにより回復傾向にある。
 - MICEの開催件数は年間80件台で推移。
 - ⇒ 旅行ニーズを捉えた観光施策を展開し、国内観光の需要回復を早期に取り込むとともに、入国制限の緩和などインバウンドの回復状況を見極めた上での観光振興が重要である。
 - ⇒ 本市の魅力総動員し、MICE誘致やアフターコンベンション充実など、MICE開催における優位性を高める必要がある。
- 農業の動向**
 - 本市の主要農産品は「米」、「野菜」であり、農業産出額の約7割を占める。
 - 「米」の需要低迷に由来する米価の下落等を受け、農業産出額は減少傾向にあり、並行して、農家数や耕地面積なども減少している。
 - ⇒ 農地の集積・集約化や効率性の高い生産基盤の整備により、生産性の向上を図る必要がある。
 - ⇒ 主食用米中心の生産構造から、需要が見込める麦や高収益の園芸作物等への転換を一層進める必要がある。

4 本市の強み・弱み【第3章 4】

- 【強み】
- 人口**
 - 生産年齢人口比率は中核市（62市）で9番目に高く、若年層の労働力が比較的豊富。
 - 近隣市町からの人口流入により社会増を維持。
 - 地勢・立地**
 - 首都圏へのアクセスが良好。
 - LRTやライトキューブ宇都宮の整備など、交通利便性の向上や交流・関係人口拡大に向けたまちづくりが進展中。
 - 経済・産業構造**
 - 本市の市内総生産は県内の約3分の1を占め、本県経済をけん引。
 - 付加価値額の特化係数（大分類）を見ると、全国と比べ相対的に「製造業」、「卸売業、小売業」、「生活関連サービス業、娯楽業」に特化がみられる。
 - 本市の付加価値額は中核市で豊田市に次いで2番目に高く、製造業だけでなく、商業・サービス業など幅広い業種で上位に位置している。
 - 工業では、製造品出荷額等が全国的にも高水準（6番目）にあり、工業団地には国内主要企業のマザー工場などが立地。
 - 商業では、県内卸売販売額の約6割、小売販売額の約3割を占めており、雇用吸収力も高い。
 - 農業では、約1万haの農地において、米を中心に園芸、果樹、花きなど多様な作物が生産されており、ブランド化などの高付加価値化に取り組んでいる。
 - 観光では、大谷地域、餃子・ジャズ・カクテル、国際的なスポーツイベント（3x3、ジャパンカップ等）、プロスポーツチームなどの多様な資源・コンテンツが存在するとともに、交通利便性に優れたコンベンション施設を整備中。
 - 市内の創業家数は大きく増加傾向にあり、支援施設、体制も充実。
- 【弱み】
- 人口**
 - 近隣市町の人口減少が進み、本市への流入が減少傾向。
 - 感染症により規模は減少したものの、依然、東京圏への転出超過が継続。
 - 地勢・立地**
 - 市内に分譲可能な産業用地が存在しない。
 - 経済・産業構造**
 - 清原・宇都宮工業団地を中心に立地する誘致企業への依存度が高い。
 - 地域内企業と密接な取引関係があり、かつ、その取引の中核的役割を担う企業が少ない。
 - 域際収支を見たときに、市外から稼ぐ産業が特定産業に大きく偏っている。
 - 農業では、高齢化の進展などによる労働力の不足などにより、農家戸数が直近5年間で15%減少するなど、離農が進んでいる。
 - 観光では、感染症の影響が長期化。

1 社会経済動向の変化への対応【第4章 1】

現行ビジョン	対応の改定ポイント	改定(案)
<p>1 新たな社会の実現に向けた動き 国において、第4次産業革命のイノベーションを用いた様々な社会課題を解決する「Society 5.0」が打ち出され、本市産業界においても、新しい価値を生み出す、「創造力」を高めるなど、変化への迅速な対応が必要である。</p> <p>2 グローバルな都市間競争の激化 インターネットの急速な発展や情報通信の活発化を受けた、新技術や新製品・サービスの創出が加速しており、本市においても、企業が情報通信技術や地域資源を活用し、企業活動を活性化させることで、「人」・「企業」・「情報」が集積した、経済変動に強い「耐久力」を高める産業構造とすることが必要である。</p> <p>3 地域経済好循環システムの構築 農工商観などすべての産業が付加価値を創出し、生産性を更に高め、地域内で「ヒト・モノ・カネ・データ」の経済循環を活発にする「循環力」を高めるとともに、地域外からの「人」や「仕事」の流入を促進し、需要や消費を増やし市場規模を拡大するため「稼ぐ力」を高めることが必要である。</p> <p>▶ 産業振興を高める「4つの力」 『創造力』…新技術や新製品など新たな価値を創造する力 『耐久力』…多種多様な企業集積による経済変動に耐える力 『循環力』…地域経済の好循環を創出する力 『稼ぐ力』…消費や需要を呼び込む力</p>	<p>G X、感染症、D X等が社会に及ぼす変化を反映</p> <p>グローバル化に伴う弊害の顕在化を反映</p> <p>都市基盤の変化に基づく好循環の創出を反映</p>	<p>1 新たな社会の実現に向けた動き ・ 国において2050年までのカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現が宣言され、カーボンニュートラルへの挑戦を成長の機会と捉えて、生産性の向上や新事業の創出などに取り組むとされており、本市においても、企業の環境対応や生産性向上、新技術や新製品・サービスの創出など、『創造力』や『耐久力』を高めるための後押しをする必要がある。 ・ 感染症を契機としてデジタル技術利活用への浸透などが進み、働き方の変容やビジネスモデルの転換が加速していることから、市内の「人」や「企業」のICTリテラシーの向上やICTを活用した新たな価値の創造を促進し、社会や経済の変化に適切に対応することで、『創造力』や『循環力』、『稼ぐ力』を高めることが必要である。</p> <p>2 経済のグローバル化の進展に伴う弊害の顕在化 感染症や経済安全保障などの影響が本市産業界にも即時かつ直接的に波及するなど、経済のグローバル化が更に進展しており、本市の優れたビジネス環境などの都市特性を生かすことで、企業活動を活性化させるとともに、本市経済の多様化を戦略的に促進し、「人」や「企業」、「情報」がより一層集積した、経済変動に強い『耐久力』や『稼ぐ力』を高める産業構造を構築する必要がある。</p> <p>3 地域経済好循環システムの構築 農工商観などすべての産業が付加価値の創出や生産性向上に取り組み、地域内で「人」「仕事」「資金」「情報」の経済循環を活発にする『循環力』を高めるとともに、LRTなどの魅力あるまちづくりの基盤や特色ある地域資源をフル活用して、地域外からの「人」「仕事」「資金」の流入を促進し、需要や消費を呼び込む『稼ぐ力』を高めることが必要である。</p>

新たに追加する施策イメージ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会経済環境の変化(感染症、カーボンニュートラル等)を受けた新事業挑戦、業態転換の推進 ・ E S G投資等の呼び込み ・ 脱炭素化への対応 ・ スタートアップの振興 ・ T P P、R C E P等への対応 ・ インバウンドの獲得強化 ・ 産業用地確保による産業集積促進 ・ 成長産業や集積を図るべき産業の振興 ・ 都市基盤の整備を活かした産業振興、交流創出 ・ 農工商観におけるICT利活用の加速 <ul style="list-style-type: none"> ・ 高度人材の育成・確保 ・ 柔軟な雇用形態への対応促進 <p>等</p>

2 本市産業の特徴や特性とこれまでの取組評価から見た課題【第4章 2】

現行ビジョン(下線:継続課題)	課題の改定ポイント	改定(案)(点線:新規課題)
<p>【施策1】本市産業を発展させる新事業、成長産業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成長が見込まれる環境・エネルギー関連産業への進出や集積を促すため、企業による新技術や新製品の創出を促進する必要がある。 ・ 健康福祉現場における人材不足を改善するための、技術や製品開発・創出に向け、ニーズ・シーズのマッチングなどが必要である。 ・ 地域経済の活性化に資する、新たな事業を生み出す「起業家」を創出する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成長産業の変化 ・ オープンイノベーションの広がり ・ スタートアップ支援の強化 <p>等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ グリーンや半導体など成長が見込まれる産業や集積を図るべき産業(調査中)。(以下、「重点振興産業」という。)の新技術や新製品の創出を促進する必要がある。 ・ 市内企業の継続的なイノベーション創出を促進するため、産学資金の緊密な連携による切れ目のない支援体制を構築する必要がある。 ・ スタートアップ企業の創出及び成長促進と地場企業の「第2創業(オープンイノベーション)」を積極的に促していく必要がある。
<p>【施策2】産業集積を高める企業の立地・定着の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業の建替えや新規立地の受け皿となる、新しい産業用地の開発を検討する必要がある。 ・ より強固な産業構造を構築するため、企業間ネットワークの中核を担う企業を多く集積させ、産業の「多極化」を図る必要がある。 ・ 女性の雇用増加を図るため、本社機能の移転促進や企業の誘致による、事務職系の働く場の増加が必要である。 ・ 雇用就農者の受け皿となる「農業参入企業」の確保が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業用地不足の長期化 ・ 脱炭素化 ・ 産業の多軸構造の実現 <p>等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存産業団地の活力を維持していくとともに、企業の立替えや新規立地の受け皿となる、新しい産業用地の開発を検討する必要がある。 ・ 重点振興産業の集積や、環境に配慮した設備投資を促す必要がある。 ・ より強固な産業構造を構築するため、企業間ネットワークの中核を担うリーディング企業を多く創出し、拡大を促進することで、産業の「多極化」を図る必要がある。 ・ 女性の雇用増加を図るため、本社機能の移転促進や企業の誘致による、事務職系の働く場の増加が必要である。 ・ 雇用就農者の受け皿となる「農業参入企業」の確保が必要である。
<p>【施策3】本市産業を支える中小・小規模企業、地場産業等の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模事業所や農業者が減少していることから、事業・経営の継続や技術の承継を図る必要がある。 ・ 地場の商業・サービス業において、ICT利活用などによる、生産性の向上を図る必要がある。 ・ 人口減少の進展による市場の縮小に備え、全国を始め海外にも販路を拡大する必要がある。 ・ 農業の生産力の維持・向上のため、組織化など持続性の高い生産体制を構築する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ D Xの進展 ・ 脱炭素化(再掲) <p>等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模事業所や農業者が減少していることから、事業・経営の継続や技術の承継を図る必要がある。 ・ 地場の商業・サービス業において、ICT利活用などD Xの進展を促進することによる、生産性の向上を図る必要がある。 ・ 人口減少の進展による市場の縮小に備え、全国を始め海外にも販路を拡大する必要がある。 ・ 持続可能な農業生産体制を構築するため、生産性の向上と環境負荷低減を両立した営農を促進する必要がある。
<p>【施策4】地域資源を最大限に活かす産業の総合力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業の6次産業化、ブランド化を更に促進させる必要がある。 ・ 農業においてICTや工業技術などを活用した生産の効率化や高付加価値化、省力化のほか、人材の確保と育成を図る必要がある。 ・ 「冷熱エネルギー」を始めとした大谷地域の貴重な資源を持続的に活用するため、産学官が連携して効果的な活用方策を進める必要がある。 ・ 本市への来訪者、交流・関係人口の拡大のため、各種地域資源の磨き上げや情報発信の強化を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農産物の地産地消の拡大 ・ コンベンション施設等の整備 <p>等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業の6次産業化、ブランド化を更に促進させる必要がある。 ・ 農業において、農産物の地産地消を推進するとともに、ICTや工業技術などを活用した生産・流通の効率化や省力化を図る必要がある。 ・ 「冷熱エネルギー」を始め、大谷地域の貴重な資源を持続的に活用するため、産学官連携のもと、効果的な活用方策の推進や事業拡大に取り組む必要がある。 ・ 本市への来訪者や交流・関係人口の拡大のため、M I C E誘致を図るほか、国際的なスポーツイベントやプロスポーツチームなどの各種地域資源の磨き上げや情報発信の強化を図るとともに、広域的に観光振興に取り組む必要がある。
<p>【施策5】産業活動の源となる人材の確保と育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 20~49歳の男女の人口格差を抑制するため、特に若年女性の雇用の受け皿確保に取り組む必要がある。 ・ 企業の人材確保に向け、人材の「質」と「量」を確保する必要がある。 ・ I O Tやビッグデータなどに精通するなど、地域産業をけん引する人材の確保と育成の必要がある。 ・ 若年層や高齢者など多様な人材が活躍できる環境整備が必要である。 ・ 創業率を高めるため、支援機関との連携や施策を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高度人材の更なる需要高騰 ・ 若年人材の職業選択の多様化 ・ 働き方に対する考え方の変化 <p>等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20~49歳の男女の人口格差を抑制するため、特に若年女性の雇用の受け皿確保に取り組む必要がある。 ・ 企業の人材確保に向け、人材の「質」と「量」を確保する必要がある。 ・ デジタル分野に精通した人材やグローバルに活躍できる人材など、地域産業をけん引する人材の確保と育成の必要がある。 ・ 若年層や高齢者など多様な人材が活躍できる環境整備が必要である。 ・ 創業率を高めるため、アントレプレナーシップの醸成やスタートアップ人材の育成など、支援機関との連携や支援施策の検討を行う必要がある。 ・ 副業や柔軟な働き方の拡大などに対応した雇用体制の構築を進める必要がある。

新たに追加する施策イメージ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点振興産業の振興 ・ 地域一構かつシームレスな企業支援体制の構築 ・ スタートアップの支援強化 ・ 宇都宮サテライトオフィスの更なる利活用
<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間主体も含めた産業用地の早期確保 ・ 重点振興産業の集積促進 ・ 中小・小規模事業者を含めた企業による脱炭素化などの設備投資の促進 ・ リーディング企業の創出・支援強化
<ul style="list-style-type: none"> ・ D Xの促進 ・ 中小・小規模事業者を含めた企業による脱炭素化などの設備投資の促進(再掲) ・ 農業分野における環境負荷の低減
<ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくりの推進と連携した交流・関係人口の拡大 ・ 国際的なスポーツイベント等を活用した都市ブランドの向上 ・ 戦略的M I C E事業の推進 ・ 広域的な観光振興
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高度人材の育成・確保 ・ アントレプレナーシップ醸成の強化 ・ スタートアップ人材の育成強化 ・ 副業や柔軟な働き方への対応